

免疫学実習

【単位数:0.5単位, 授業13コマ】

1 科目責任者

高村祥子 教授(感染・免疫学)

2 教育目標

(1) ねらい(Ⅲ-3-c)

- ① コンピテンスである「医学知識と科学的探究心」を理解するため、疾病の病因・病態・治療につながる基礎医学的な知識や方法論を学び、それにより“プロフェッショナリズム”育成につなげる。
- ② 免疫系の機構を分子レベルで理解し、その機構を応用した実験方法を実践し解析・考察することで実際の臨床検査にどのように応用されているのかを学び、それにより『適切な検査を選択し結果を正しく解釈できる』技能育成につなげる。

(2) 学修目標

- ① 免疫機構を応用した検査の種類や意義を説明できる。
- ② 実験の手順や各段階の作業の意義を理解し、正しく実践できる。
- ③ 実験結果を正しくまとめて説明し、考察できる。
- ④ 実験機器の使い方や仕組みを理解し説明できる。

3 成績の判定・評価

(1) 総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
レポート	○	70%	実習終了後に実習レポートを提出する。未提出や提出遅延, 記載不良の場合最大40点の減点や, 再提出を求める場合がある。
小テスト, 口頭試問	○	30%	実習最終日に小テストを行う。口頭試問は実習中に随時行う。
態度	○	—	受講態度が著しく不良の場合は最大40点減点をする。

出席: 実習を修得するためには, 欠席をしてはならない。

(2) 合格基準

評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。

(3) 再試験・再評価の方法

上記(2)で総合成績が60%未満の場合は, 課題・レポートを課す。

(4) 課題(試験やレポート)へのフィードバック

実習レポートは, 添削・採点し返却する。必要に応じて, 講義や実習前に解説を行なう。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
独自に作成した実習テキストを配付します。			

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
Janeway's免疫生物学 (原著第9版)	笹月健彦 吉開泰信 監訳	南江堂	付録 I のところに実験に関する記述があり参照できる。

6 準備学習（予習・復習）

実習前に行うこと

- 実習書及び実習ノート(課題含む)をAIDLE-Kに挙げておくので、あらかじめ予習すること(1日あたり約0.5時間)。
- 実習には必要と思われる参考書などを持参すること。

実習後に行うこと

- 実習ノートで課題の訂正があったところなどをよく復習しておくこと(1日あたり約0.5時間)。

7 授業計画

(1) 講義の方法

最初に実習内容について解説を行うので、学生はこれに沿って実験を行う。各自実験結果を実習ノートにまとめるとともにノートに含まれている課題もまとめ、提出する。また AIDLE-K 上にも課題を課することがある。

(2) 講義の内容

実際に各自で実験を行うことで基本的な実験手技を習得する。臨床にも応用されている実験方法を行うことで、免疫学的機序がどのように利用されているのか実験方法の意味を理解するとともに検査項目の臨床的意義や意味を理解する。